

## 元気なまち あしべつ 介護職員初任者研修



社会福祉法人 芦別慈恵園  
くらし事業部長 和田直樹  
H30.3.24

### 現在①

- ・高齢化率～約44%
- ・介護認定率～21%(全国平均17%)
- ・高齢者の定義→老年学会提言で見直し75歳
- ・65～74歳は準高齢者として社会の支え手と捉え直す  
(平成29年1月6日北海道新聞より)
- ・活躍したいけどどうしたらよいかわからない方々が外に行かず自宅で過ごしている

### 現在②

- ・子どもたちの人口が減少
- ・福祉に興味をもったり、何らかの形で人とかかわる仕事かしたいと思っている高校生がいる
- ・小学生から高校生まで授業の一環等で福祉に関わっている
- ・認知症の理解や介護の基礎を学ぶチャンスが今までもあったが、講習を受けるだけになってしまい、なかなか発展しない  
(市内で活用が難しかった)
- ・ボランティアスクール参加者が減少～方法の検討が必要

## 元気なまち あしべつ

人にやさしいまち  
福祉のまち  
人々がげんきなまち

### 「介護職員初任者研修」を 市内の事業者等みんなで市民の為に開催

- ・対象者～中学生以上の芦別市民および  
芦別市内で働いている方
- ・開催～年に1回・・・130時間(10科目・38項目)
- ・講師～市内それぞれで働いている専門職および市内で自宅にいる有資格者(養護教諭や保健師・看護師などの専門職)



## 元気なまちあしべつ介護職員初任者研修

### 【特色】

1. 芦別市内で働きかけづくり
2. 年齢に関係なく、人の為に何かするという気持ちで心の元気と活性化につながる
3. 介護を考える会による「オール芦別」の専門職員で行う  
(地元の福祉のこともおろそかにならずに講義)
4. 安価の設定(中学生7,500円・一般17,500円)
5. 認知症のサポーター研修にもなる



## 元気なまちあしべつ介護職員初任者研修

### 【期間】

平成29年8月2日～11月20日

### 【受講生】

芦別高校3年生～ 5名  
芦別高校2年生～ 6名  
一 般 ～ 6名  
(主婦1・すぼる2・慈恵園3)

合 計 17名

### 講師陣

・市内専門職19名  
社会福祉士・介護福祉士・  
看護師・管理栄養士・  
作業療法士・保健師・  
介護支援専門員



テキストと自分で資料を作成  
声別のこともお伝えしながら  
講義を行う

開始当初に受講生との約束で、

## 全員無事合格して 修了すること

を目指しました。



レポートも少しか書けない学生もいましたが、  
終盤の実習あたりからみんなの目つきが変わって  
きました。



実際にお客様と関わると、  
今までボランティアで来ていた時と感じ方が  
違ったといっていました。

実習レポートは、見る視点を基にしっかりと  
書いていました。

## 初任者研修 受講振り返り・修了式

芦別高校より、  
教頭先生と  
進路指導阿部先生出席  
フレス空知にも取材依頼



ふいかえりでは  
次のようなことをコメントしていました

座学だけではなく、実習で実際に体験してみて、話しかけ方や介助の仕方、テキストだけじゃ分からないことも学んだ。



自立に向けた介護は研修を受けなければ学べなかったと思う。



仕事をしているときも、この方のご自分でどこまでできるのかと待つことが出来るようになってきた。



知識もそうだが、実習が自分のなかでは大きかった。

ボランティアで来ていると違って働くということが勉強になった。自分には資格なんて取れないと思っていた。

資格は一生もの。就職に活かしたい。



利用者さんの意思を尊重し、第一に考えること。介護士を目指すか迷っているが、この資格を取って将来や自分の祖母や母の為に役に立てるようにしたい。



認知症の方との接し方など全体を通して今まで知らないことなどが学べた。進路はしっかりと決まっていらないがこの経験を活かしていきたい。





自分の介護生活を整理する目的で受講。  
勉強を通して、その人らしく介助するための本質を知ることができた。  
資格はスタートライン。  
社会で役に立てれば。



知らないことが多かった。  
動き出しはご本人からが特に印象が高かった。利用者の意欲を引き出すということにも意味があることが分かった。



尊厳を大切に一人ひとりの生活のスタイルに合わせた介護の仕方を考えて行動しなければならないと思った。  
仕事を通して向上していきたい。



出来る事までも介護職員がするのではなく、出来ない事を手助けすること。  
研修を通して、利用者さんの気持ちにそって物事を考えると、利用者さんの立場での考えが出来るのかなと学んだ。  
来年から職員として働くので、研修での学びを活かして利用者さんやご家族の方々と接していけたらと思っています。

いろんな介助をするときに工夫して、やってもらうようにしてたので大変だなとは思ってたけど、介助の体験が出来て良かった。  
まだまだ出来ない事が多いから、自分でできることをしていきたい。



尊厳を守ることの大切さ  
一人で行うのではなく、たくさんの方や多職種との連携が必要なこと。  
動き出しはご本人からの意味の大切さを知った。  
自分主体ではなく、相手主体に考えたり動いたりできるようにしたい。





介護職としての基礎的なことや利用者さんのための工夫をした食べ物、介護用具、介護士として大切な行動力やコミュニケーション力を学ばせていただいた。



春からの介護の仕事で、「あの時取っておいて良かったな」と思えるようにしたい(あの時頑張れたから次も頑張れるというものにしたい)。

実習をしてみて、一人ひとりみな違うから、その人にあった介護をすることが大切だと思います。

利用者から動いてくれるのを待って介護することが大切だと思います。

将来介護の仕事につこうと思っているので、この研修で学んだことを活かそうと思いました。



介護のことも学びましたが、高校生から大人の方もいて人間関係の大切さやコミュニケーションの大切さを学びました。

たぶん1人だったらここまで続けられなかった。

介護福祉士の資格を取る一歩前。今後資格をとれるように頑張りたい。



人との関わりの大切さ。いろいろな制度により利用者も職員も動いている。利用者の人生の終わりが近いところでの出会い。

今まで通い仕事をしていこうと思っていますが、また何かのスキルアップの機会があれば挑戦してみたいです。



介護職はやっぱい何事にもコミュニケーションが必要なんだと思いました。



進路で困ったら介護に進もうと思いました。

実際に利用者さんと関わってイメージが変わった。



最初は利用者の方と話すことも出来ないと思っていましたが、質問してくれたり、笑ってくれたり、話すことの大切さを学びました。



実際に介護してみないとわからないものばかりなんだと思いました。

受講者…自立支援介護の理解を深めた



学校の先生より…

- ・色々大変だったと思います。電話来るたびに職員同士で話すこともあった。
- ・しかし、6時間授業を終わってそれから3時間自ら学ぶことは偉かったと思う。
- ・彼らがやり遂げたことに自信をつけているようです。



芦別高校3年生5名のうち  
福祉職についての学生3名  
市内2名・赤平市1名  
(高齢者関係2名・障がい者関係1名)

人にやさしいまち  
福祉のまち  
人々がげんきなまち

あしべつ

北海道でたぶん  
ほかの市町村では取り組んでいない、  
まちをあげての取り組み(オール芦別)  
→模範になるのでは？

「オール芦別」



みんなで介護を考える会

芦別市内(役所・各事業所)11事業所が  
協働で運営  
開始、修了時に説明や報告をして情報を共有

今年度実施して…

【芦別市から評価を得る】



芦別市から補助金 期待度が高い

受講生…自立支援介護において  
芦別慈恵園の取り組みを通して理解  
職員……講師を行った職員⇒発信できるように  
理解が深まった

例えば～資格を取得することで



- ・有償ボランティアをすることが出来るようになった
- ・今行っている仕事(スーパー・タクシー・福祉で働いているが無資格)でも、関わり方の視点が変わった
- ・認知症の理解が深まる
- ・簡単なことであれば自分もやってみたいと思う
- ・資格取得し実際に働いてみることで今度は自分が教える側に(講師になる)
- ・生活支援コーディネーターの発掘につながる(第三層への入り口づくり)  
(第三層から一層において取り組める方がいるかもしれない)



**平成30年度開催に向けて**

- ① 芦別高校との打ち合わせと情報の共有化  
(高校を決めるきっかけ・ウリとなるように)
- ② 学生(中高生)・一般市民への周知強化
- ③ 教科書の変更  
(ルビがうってあるものへ変更)

